

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873400378		
法人名	有限会社 凜成		
事業所名	グループホームひだまりの家	ユニット名(2階)	
所在地	〒313-0106 茨城県常陸太田市下利員町1086-1		
自己評価作成日	令和4年2月16日	評価結果市町村受理日	令和 4 年 4 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひだまりの家の駐車場の周りには木々が茂り季節ごとに桜や山藤が咲いたり土手の上には水仙が花を咲かせ柿やみかんの実を愛でることが出来る環境にあります。現在もコロナ禍の影響で地域の方々との交流や集まりの機会を持つことが出来ず外部との接触が少ない現状です。ただし、感染者が減少している時期にはご家族との面会を蜜にならない様感染予防に努め、再会して顔や声を聞ける喜びを感じる事が出来ました。何よりスタッフが感染させない様に生活の制限を各自、自覚しながら入居者様に日々接してくれている事に感謝です。制限の中でも入居者様と共に話しを楽しみ笑い歌って過ごす日々を送っていますが、高齢の入居者様は食欲があり「美味しかったよ」と声を掛けてくれるのが何より嬉しい限りです。体調の管理は看護師と管理者の連携でスタッフへの申し送り共有する事が出来安心して対応できています。毎月の行事の催し物はレクリエーション担当が中心になり盛り上げてくれるので入居者様と一緒に楽しい時間を共有出来ます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873400378-00&ServiceCd=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所付近には林や土手があり、春先には水仙が土手一面に咲きほこり事業所内から眺められ癒される環境にある。町内には事業所の本部と同一法人系列の事業所があり、運営推進会議を合同で行う等連携を取っている。看護師が職員として配置され、薬や病状の管理を行っていることで利用者や職員の安心につながっている。職員は経験豊富な永年勤務者が多く利用者や職員同士のコミュニケーションが取りやすい体制になっている。重度化した場合には職員一丸となって一人ひとりに合わせたプランを作成し看取りを行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和4年3月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	有限会社凜成の掲げている理念と事業所で作成した理念を毎朝の朝礼時に唱和し皆で共有し実践している。	事業所の理念は毎年年度初めに作成している。「寄り添う介護を実践する」という理念に基づき、一人ひとりに声をかけて状態を把握し、職員全員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2年以上コロナ感染症の終息がなく、毎年恒例の秋祭りも中止で施設への出入りも制限しているので残念ですが今の所、地域との交流は避けています。	地域住民から野菜などの差し入れが有るほか、事業所の駐車場と隣接する地主が広い地域に水仙を毎年利用者が楽しめるように咲かせてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同じ様にコロナ禍なので認知症の理解を地域の人達に広めて活動したい事が出来ていません。。施設のスタッフに新規入所の方の認知症の理解や進行している入所者様の症状は共有して貰っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催出来ていませんが、2ヶ月に1回各施設で行った行事報告や写真載せて通信を作成し、今後の行事や現在の入居状況も入れて役員の方々や市役所に送付し情報の共有を行っている。	コロナ禍以前は同一法人のグループホームと合同で定期的開催していたが、現在は本部からの報告書を委員に送付するのみとなっている。委員から意見等を聴取するまでには至っていない。	構成メンバーから意見を貰い、事業所が主体となって行うことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍ですが市の担当者の方に空床時の情報提供やワクチン接種に関する情報を確認したり連絡を取り合ったりしている。又、主任ケアマネ会でケアプラン点検を行い情報提供や共有をしている。	市主催の介護計画作成委員会にオンラインで参加している。法改定の時などの研修会に参加している。生活保護担当者とは電話で連絡したり、年に1回の訪問の他必要に応じて訪問がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で年に4回研修を行う規定があるので、身体拘束についての研修を出来るだけミーティング時に取り入れてスタッフに再度確認して貰ったり、現場で当てはまる事がないか話している。また虐待についての研修も入れている。	身体拘束適正化委員会を設置し、3ヶ月に1回開催の上、指針を作成し、研修を行っている。廊下に「身体拘束のない介護」のポスターを掲示して意識づけするとともに利用者に対する言葉遣いに留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて学び合い、どのようなことが虐待なのかスタッフが理解し合い、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では利用している入居者様はいないが、日常生活自立支援について知識や成年後見人制度について学ぶ機会を得ている。できるだけスタッフが知識を広めてもらえるような研修や勉強会を開催するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書に沿って契約時には伝えておきたい箇所の説明(補足)を行い、ご家族に納得を頂いて判を押して貰っている。不明点に関してはご家族から電話等もあるので分かり易く説明をして納得して貰っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に今の利用者についての現状や会社の雰囲気、意見や要望などのアンケートを実施した経過がある。また意見箱を玄関に設置している。	利用者や家族等が意見や苦情を言える機関を重要事項説明書に掲載し、入居の際に説明している。利用者からは日々の生活の中で、家族等からは電話で現状報告をしたときに話を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや毎日の朝礼で職員の意見を聞いている。業務の中でも意見や提案を聞き、反映させている。	何でも言える環境づくりをし、毎月の職員会議で職員からの意見を聞いている。利用者への対応についての意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コロナ禍もあり集まったのスタッフ表彰は無い。時給のアップはあった。有給休暇も勤務日数や勤務時間に応じて取得し取るように話している。年度初めに個人が社長と面接を行い要望を伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で密になることを控えている為余り研修は出来ていない。その為人数を控えて食に関する研修をDVDを見て実施してみた。今後も引き続き行う予定。リモート研修も実施している。参考になる資料があればスタッフに渡している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為常陸太田市の連絡協議会が機能していない。暫く他施設との意見交換も出来ていない。ただ施設から施設への入所者の移動の検討をお願いしたい旨の連絡はあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れるまでは時間がかかる為、入所時に本人や家族と出来るだけ関わりを持ち、聞き出している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活歴を聞きながら、本人にとって住みやすい環境になれるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に施設長や管理者、看護師を交えて話し合い、ご本人がより良いサービスが受けられるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護だけでなく本人の立場にたって寄り添いながら、共に生活出来るように仕事に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一時的に離れての面会は少しできていたが直接会って話すことが難しくなったので、定期的に電話で現在の状態や状況の説明を行い、情報を共有している。必要なものや状態に変化があればご家族に相談、報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなければ、利用者様の家族や友人や親せきの方も来訪している。家族の協力を得て帰宅したり外出へ出かけられるが今の状況ではできていない。	入居時の聞き取りと利用者との日々の会話や家族等からの話を聞いて把握している。家族等と外食や買い物、墓参りに出かけるなど、関係継続のための支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの関わりや、その都度状態を見ながら対応できるように配慮し支援するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族との関係を大事にし、さまざまな面でつながりあえるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の立場になり、一人一人の思いに沿った介護を行っている。各スタッフは、日常生活でつぶやいたことや変化があればiPadに入力し、皆で共有できるように努めている。	日々の支援の中から聞き取った要望を、ケース記録に記載し、朝礼やミーティング時、申し送り時に職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴を把握しながらどのように関わりをもったらよいかをミーティング等で話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握しながら、変わったことがあればミーティングなどで今後の関わりについて話す場を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まめに足を運ぶご家族からは、口頭で状態や病状の報告をして思いの共有をし、ご本人が暮らしやすくなる為の課題を管理者や看護師、スタッフで話し合い、皆が共有することでケアプランに繋げていける。モニタリングは必ず実施し、後のプランに活かしている。	家族等や利用者の意向を基に医療関係者の意見を取り入れて職員全員で計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録がiPad入力に変わり、入居者様の情報共有は朝礼やミーティング時に行っている。受信後の結果や家族からの情報提供、変更事項は申し送りにも書いておき、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化に伴い、看取りにも取り組んでいる。その際、かかりつけ医と家族とスタッフが話し合い、どのようなサービスを提供するのか取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺は緑が豊かで、暖かいときには外でお茶を飲んだり日光浴などしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者にあった医療を受けられるよう、入所時に、今までの状態を踏まえながらかかりつけ医を決めている。	契約時にこれまでのかかりつけ医への受診が可能なことを説明している。協力医療機関の医師による訪問診療や看護師による服薬管理、排便コントロールなどを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より看護師が利用者様の健康状態を確認しそのうえで介護スタッフが、変化や気づいたことがあれば看護師に報告している。利用者に合った医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で面会が出来ない為入退院になった時は、看護師や管理者が状態の経過の方を病院に連絡して聞いたり、ご家族に連絡があったのか確認の電話を入れたりしている。その上で医療機関と連携をとり病院によってはケースワーカーと連絡調整や確認をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様の嚥下状態や心身の状態を考慮しながらその都度ご家族と話しをして重度化時の終末期の確認をして看取り対応とし、今まで看取りを何人も行って来ている。ご家族に同意書を貰い主治医からも話しをして貰い同意のもとで支援に繋げている。スタッフの看取りに対する認識も出ている。	「重度化した場合における対応に係る指針」と「看取り指針」がある。重度化や看取りのマニュアルを作成し、看護師が外部研修に参加し、施設内で伝達研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍になり年2回実施しなければならない避難訓練が1回しか出来ない年もあった。地震想定での避難訓練が実施出来なかったけれど災害時や急変時の対応をミーティング時に再確認や話し合うことは出来ている。春に2回目の避難訓練を行う予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍の前は地元住民や消防団に参加をお願いして避難訓練が出来ていたが、コロナ禍になり訓練の実施は出来ていない。今後色々な災害に備えた実施案を作成し、スタッフと共有していく予定。備蓄品の管理をし、賞味期限を確認、処分、追加していく。	夜間想定を含む避難訓練が年2回以上開催されていない。訓練を行った後には反省会を行い課題について話し合っている。災害に備えた備蓄品を管理している。	反省点を次の目標にあげ、夜間想定を含め年2回の避難訓練の実施を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの立場になり、本人に寄り添いながら丁寧な言葉で対応している。	一人ひとりに寄り添いながらプライバシーを損ねないような言葉使いで対応している。人権尊重や守秘義務については規程を定めているが研修を行うまでには至っていない。	接遇に関する研修の実施を提案する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で声かけしながら本人の思いや不安がないか聞き出すよう関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人がストレスを溜めないように、また不安にならないように、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の思いを傾聴しながら希望にそった身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いつもではないが、調理スタッフの方が持ってきた野菜の皮をむいたり食器拭きを楽しんで手伝って頂いている。	献立は職員が作成している。利用者の好物や苦手なものに配慮している。季節ごとの行事食や誕生会には刺身やケーキを提供している。利用者はテーブル拭きや食器拭き、野菜の皮むきなどを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べた量と水分量をiPadに記録し把握している。食事や水分が足りない方は食べやすいものや好みのもを提供している。また社長と調理スタッフとで集まってどのような食事を提供したらよいか相談の場を設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後スタッフが全員に声かけ、口腔ケアをして清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の状態を確認、記録しているので排泄パターンを把握している。トイレで排泄ができるように誘導し自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表からそれぞれの排泄パターンを把握し、声掛け誘導して日中はトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者には適度な運動をしてもらったり、水分を多めに摂って頂いている。それでも便が出ない場合はお薬で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的に清潔を保てるよう、入浴を心掛けている。できるだけ本人の希望時に楽しんで入浴できるよう努めている。	入浴は基本週1回、入浴を拒む利用者には無理強いしていない。浴室にはファンヒーターを置くなどして安全に入浴できるよう配慮している。	利用者の楽しみや清潔保持のため、入浴支援を工夫し週2回の入浴を期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールには畳があり、利用者様と一緒に話をしながら洗濯物を干したり、たんだりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については看護師、管理者がすべて把握しており、変更があった場合にはノートに書いてスタッフがわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月誕生会や、(コロナ禍のため行けていないが)外出出来るときには季節に応じてドライブをかねての外出など行っている。その都度、工夫を凝らした食事やデザートが出される。利用者様と一緒に楽しむことができ、気分転換もはかれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の支援には以前から力を入れてきたが、ご利用者様の全体的な高齢化と認知症の進行による心身機能の低下、猛暑や寒さ、今はコロナ禍で遠出も近所にも出かけることができない。落ち着いてきたら近場でも楽しんでもらえるように、気候が良い暖かい時期の外出を計画したい。外泊希望のご利用者様もおられる。	事業所の駐車場でテーブルを出してお茶を飲んだり日光浴をしている。コロナ禍前は近隣の公園などに散歩に出かけていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かることが多いがその場合、本人に確認しながら把握するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	話しがしたいという訴えがある時は電話をつないで話をしてもらい、随時連絡をとれるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では誰が来られてもいように掃除をしているので清潔が保たれている。季節にあった花を玄関やホールに置いたり、また利用者が作成したカレンダー、塗り絵など作成物がホールに飾ってあり季節感を感じることができる。	居間兼食堂は至る所に加湿器や観葉植物を設置し利用者が心地よく過ごせるように支援している。廊下には籐のベンチが数個配置され利用者同士で寛げる場所となっている。小上がりの畳の部屋があり、利用者は洗濯物を畳んだりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には椅子があり、利用者同士でコミュニケーションをとったり外の景色を観る事ができる。利用者同士、歩きながら軽い運動もすることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れたものや好みのもをご家族に持ってきていただき、今までと変わらない環境で居心地よく過ごせるように努力している。	管理者は利用者が今まで使っていた馴染みの物を持ち込み、利用者が安心して過ごせるよう家族等に話している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は広々としており、一人一人の思いをくみ取り、居室やホールを自由に行き来出来るように対応している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

〒名 グループホームひだまりの家

作成日 令和4年4月19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害対策の中で反省点を次回の目標にあげ、夜間想定を含め年2回の避難訓練の実施を期待する。	春と秋の避難訓練を必ず年2回実施することとし、春に夜間想定 of 避難訓練を行うことにする。	夜間想定 of 避難訓練を5月～6月の間に前回の避難訓練の反省を踏まえて実施する。出来れば地震想定 of 避難訓練も計画してみたい実施出来ればと思っている。	3ヶ月
2	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保の中で接遇に関する研修の実施を提案する。	経験豊富なスタッフ、経験が浅いスタッフ全員に接遇に関する知識を研修に参加することで再度確認や認識を貰うこと。	毎日、24時間入居者様に接する中で各入居者様の人格を尊重しての言葉のかけ方、話し方や接し方の再確認をする為に、接遇に関する資料を参考に研修用の資料を作成し研修会をミーティングの時に実施する。	3ヶ月
3	17	入浴を楽しむことが出来る支援の中で利用者の楽しみや清潔保持のため、入浴支援を工夫し週2回 of 入浴を期待する。	週2回 of 入浴を基本にして、出来ない時は足浴や清拭(陰部清拭も含む)を行うことで清潔保持し、入居者様の楽しみを優先させていく。	今後介護スタッフを増やしていき、受診のない曜日を優先的に入浴の日とし各スタッフと共有しながら、事前に着替えを用意しておき、すぐ入浴が出来る体制を整えていく。入浴が出来なくても清拭し着替えた事や陰部洗浄等を記入出来る一覧表を作成し皆で共有出来る様にする。	6ヶ月
4	4	運営推進会議を活かした取り組みの中で構成メンバーから意見を貰い、事業所が主体となっていくことを期待する。	まだコロナ禍なので集まる機会がないですが、地区の役員の方から意見や要望が貰えるようにコンタクトを取って運営推進会議に反映させていく。	行政の指導のもとで運営推進会議の構成委員さんに事業所での現状報告や行事を行った経過や今後の行事について報告し、意見を貰い委員さん方との繋がりを築いていくようにする。	6ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。